

霧 島 山

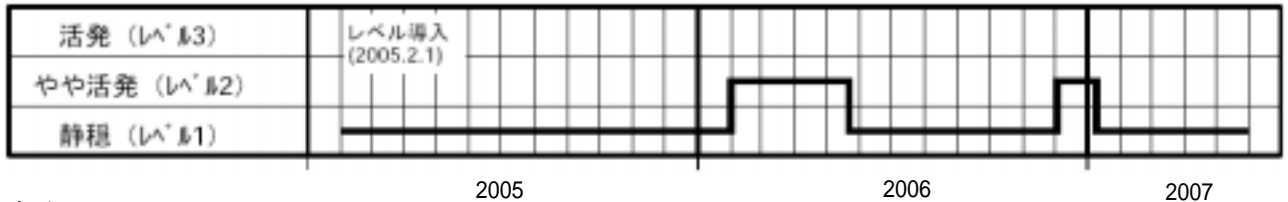
新燃岳

火山活動評価：静穏な状況（レベル1）

火山活動に変化はなく、静穏な状況で経過しました。

2007年1月9日以降、レベル1が継続しています。

火山活動度レベルの推移（新燃岳）



概況

- 地震、微動活動（表1、図2、図3）

火山性地震の発生回数は53回（4月：30回）と、やや増加しました。火山性微動は観測されませんでした（4月：1回）。

- 噴煙活動

遠望観測では火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

- 地殻変動（図4、図5）

GPSによる連続観測では、新燃岳を囲む3基線で伸びの傾向が見られており、これは新燃岳の山体膨張を示していると考えられます。

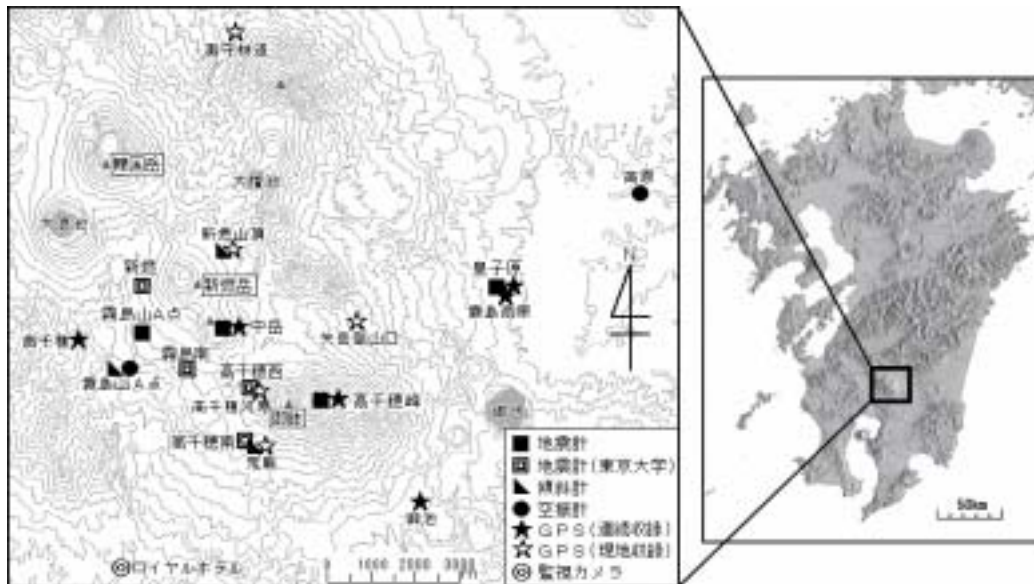


図1 霧島山 観測点配置図

この資料は気象庁の他、東京大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

地図の作成に当たっては、国土地理院の承認を得て、同院発行の数値地図 50mメッシュ（標高）、25000分の1の地形図を使用しています（承認番号：平17総使、第503号）。

表1 霧島山(新燃岳) 最近1年間の地震・微動回数(2006年6月~2007年5月)

2006~2007年	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
地震回数	18	9	3	16	6	8	179	52	128	93	30	53
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0

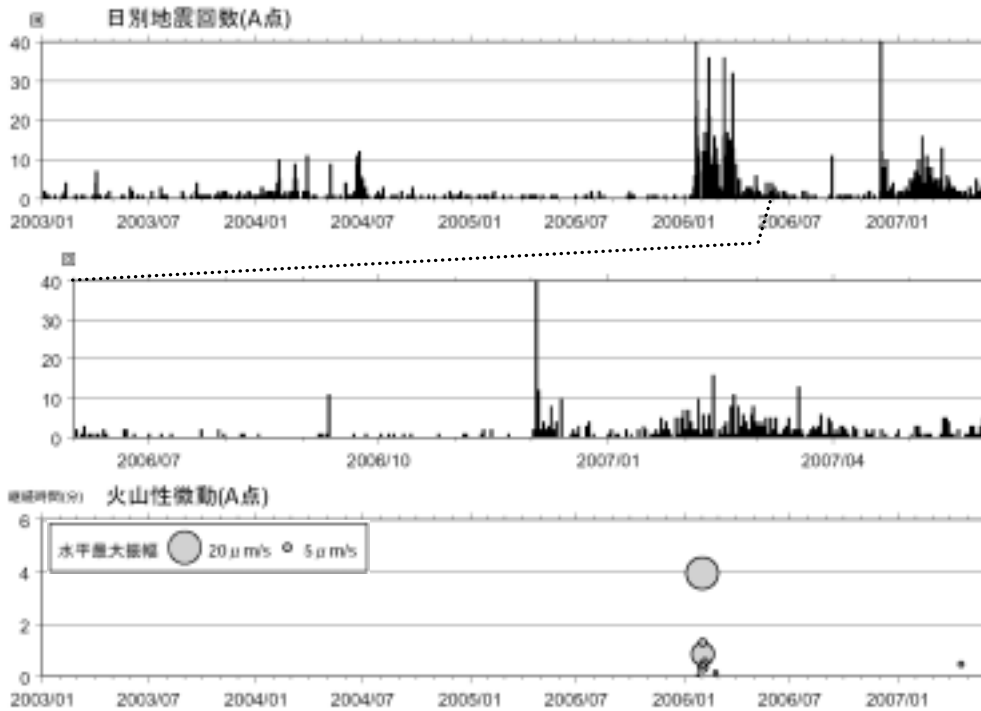


図2 霧島山(新燃岳) 地震・微動活動経過図(2003年1月~2007年5月)

- ・火山性地震の発生回数は53回(4月:30回)と、やや増加しました。
- ・火山性微動は観測されませんでした(4月:1回)。

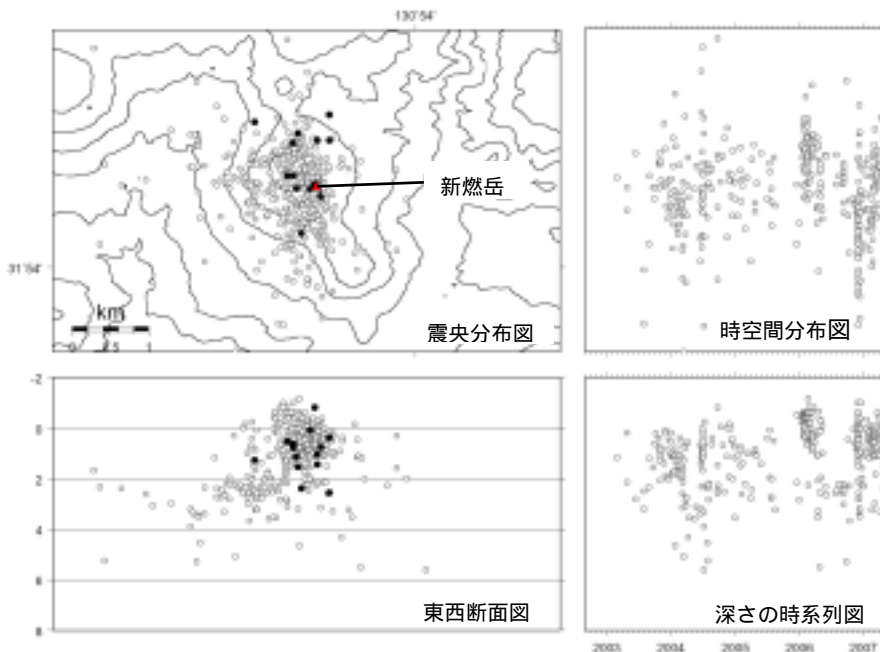


図3 霧島山(新燃岳) 震源分布図(2002年9月~2007年5月)

新燃岳付近で発生した地震の震源は16個求まり、新燃岳火口付近の深さ0~2km付近に分布しています。

*今期間の震源は黒丸で表示しています。

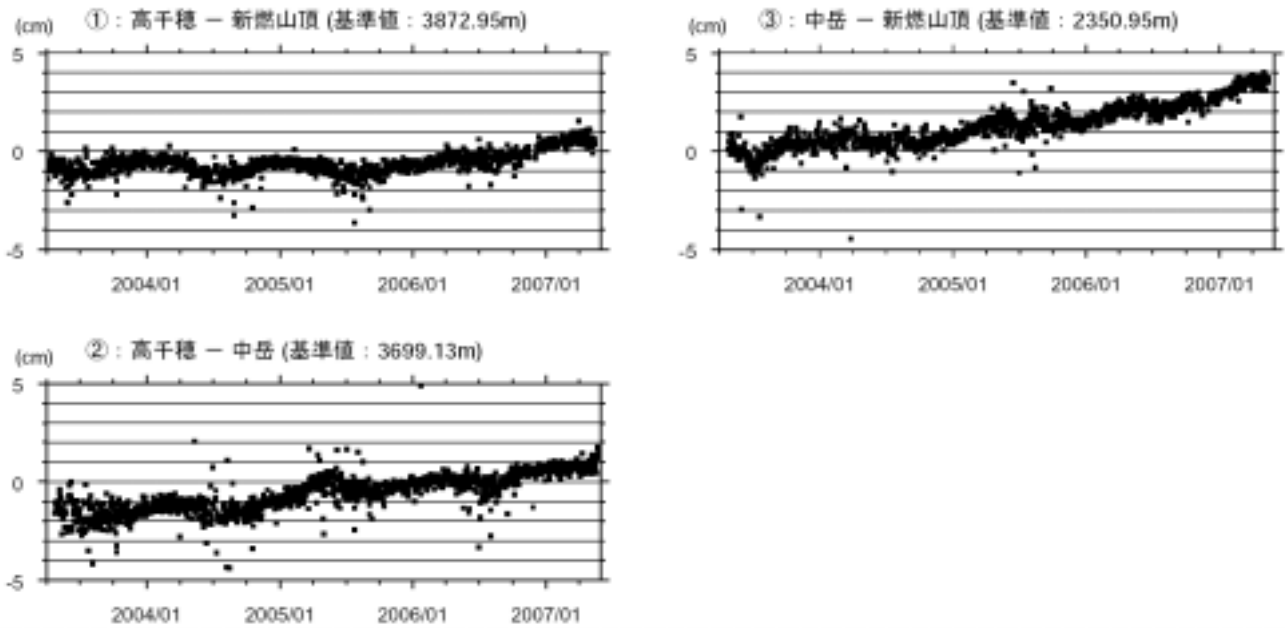


図4 霧島山(新燃岳) GPS連続観測による基線長変化(2003年4月~2007年5月)

高千穂-中岳および 中岳-新燃山頂では2004年終わり頃からすでに伸びの傾向が見られていましたが、2006年始め頃からは 高千穂-新燃山頂でも伸びの傾向が見られるようになりました。これは新燃岳の山体膨張を示していると考えられます。



図5 霧島山(新燃岳) GPS連続観測点と基線番号

新燃岳を囲んだ3観測点の基線による観測を行っています。
この基線は図4の ① ~ ③ に対応しています。

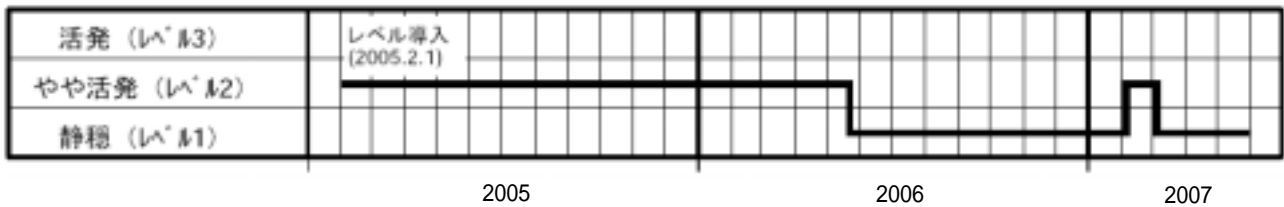
御鉢

火山活動評価：静穏な状況（レベル 1）

火山活動に変化はなく、静穏な状況で経過しました。

3 月 5 日以降、レベル 1 が継続しています。

火山活動度レベルの推移（御鉢）



概況

- ・地震、微動活動（表 2、図 6、図 7）

火山性地震は 7 回（4 月：8 回）と少ない状態でした。火山性微動は観測されませんでした。

- ・噴気活動（図 6）

監視カメラでは火口縁を超える噴気は観測されませんでした。

- ・地殻変動（図 8、図 9、図 10、図 11）

GPS 連続観測による地殻変動観測では、長期的には高千穂峰観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

表 2 霧島山(御鉢) 最近 1 年間の地震・微動回数(2006 年 6 月～2007 年 5 月)

2006～2007 年	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
地震回数	9	16	8	7	6	5	9	10	4	6	8	7
微動回数	3	0	0	0	0	0	1	12	3	8	0	0

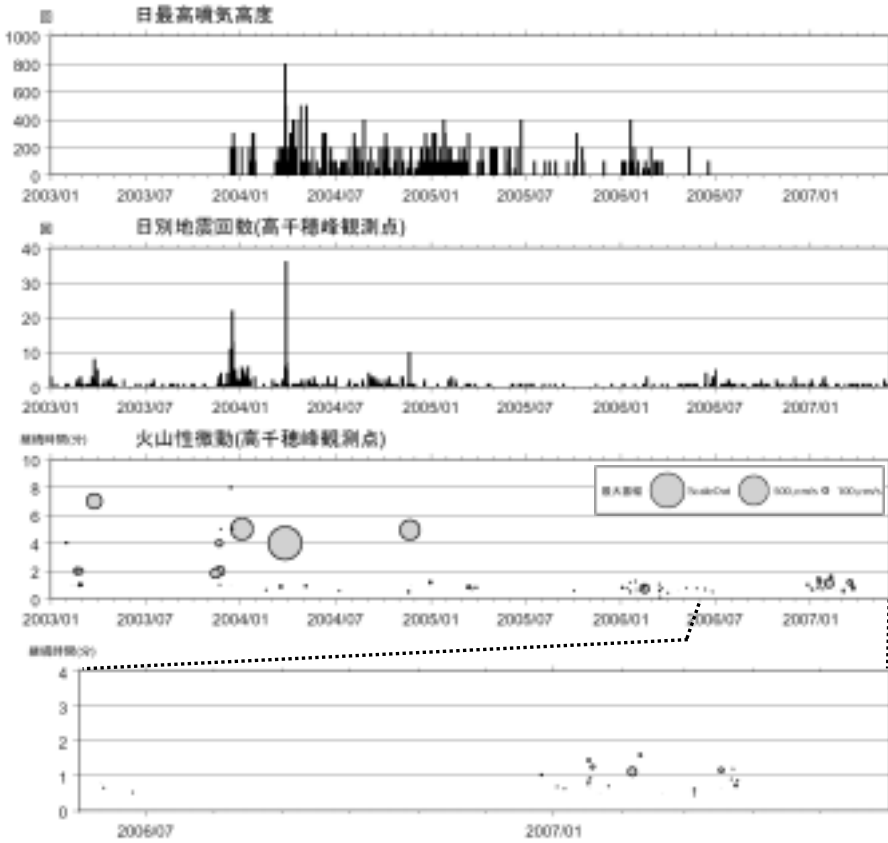


図6 霧島山(御鉢) 火山活動経過図(2003年1月~2007年5月)
 ・監視カメラでは、火口縁を超える噴気は観測されませんでした。
 ・火山性地震は少ない状態が続いています。
 ・火山性微動は観測されませんでした。

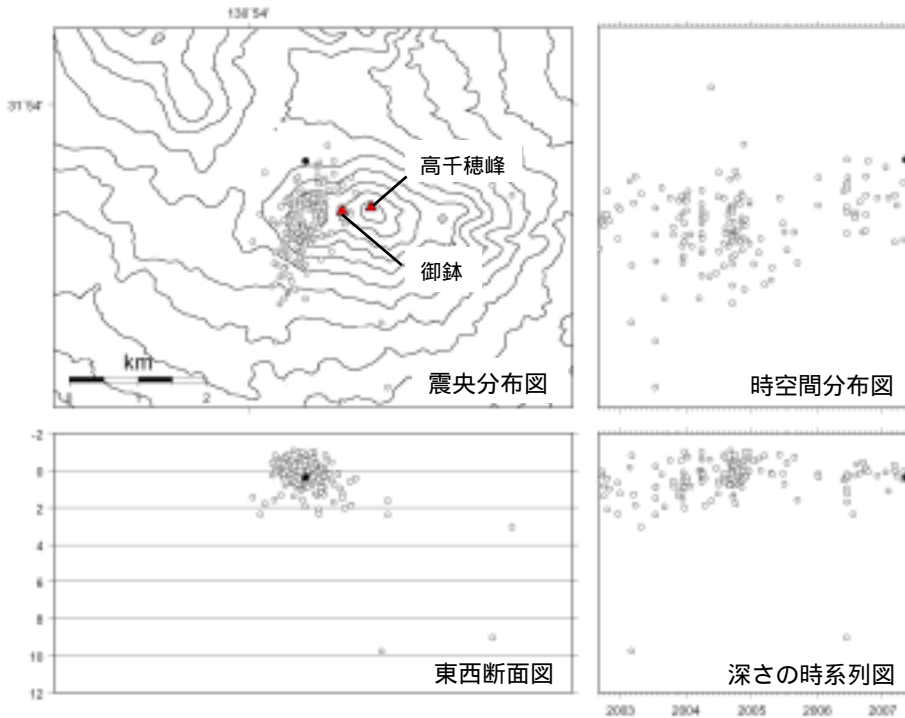


図7 霧島山 震源分布図(2002年9月~2007年5月)
 御鉢付近で発生した地震の震源は1個求まりました。震源は御鉢火口北約1km、深さ約0kmに位置しています。

* 今期間の震源は黒丸で表示しています。

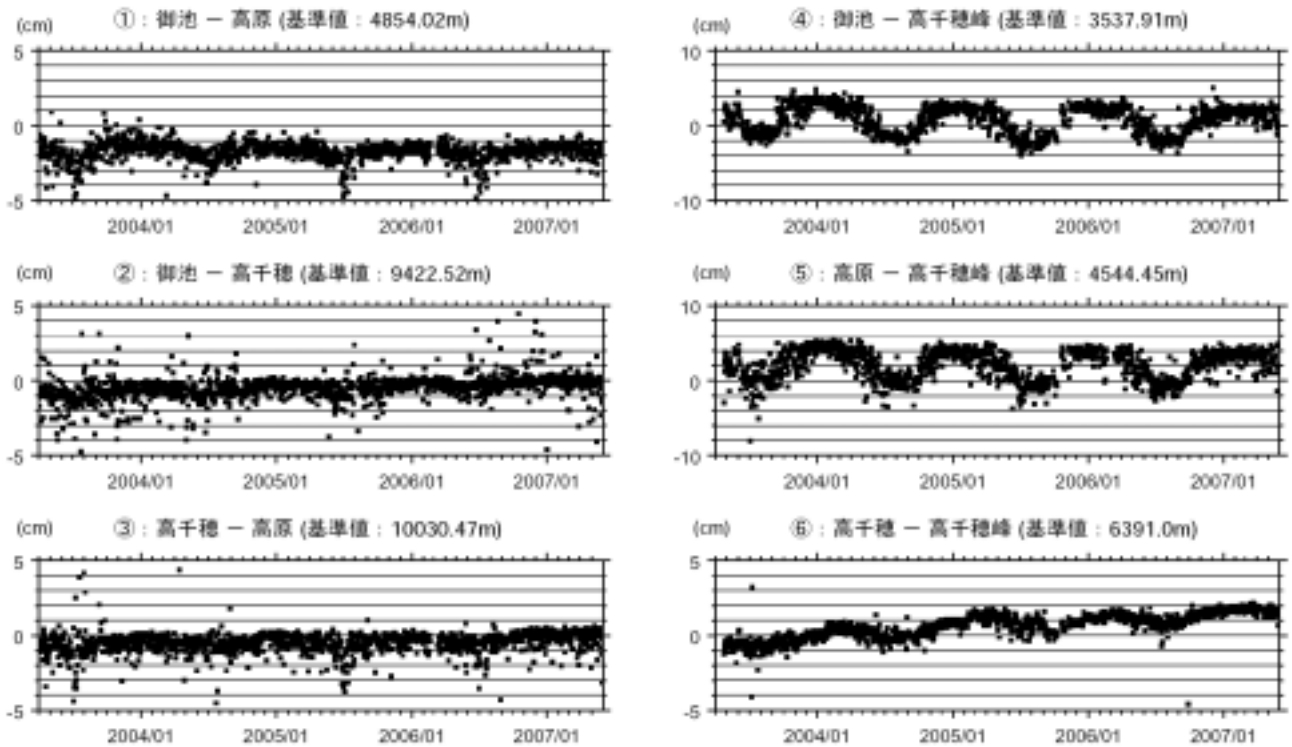


図 8 霧島山（御鉢） GPS 連続観測による基線長変化（2003 年 4 月～2007 年 5 月）
 長期的には、高千穂峰の観測点がわずかに南東に動く傾向が観測されています。

* 概ね 1 年周期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

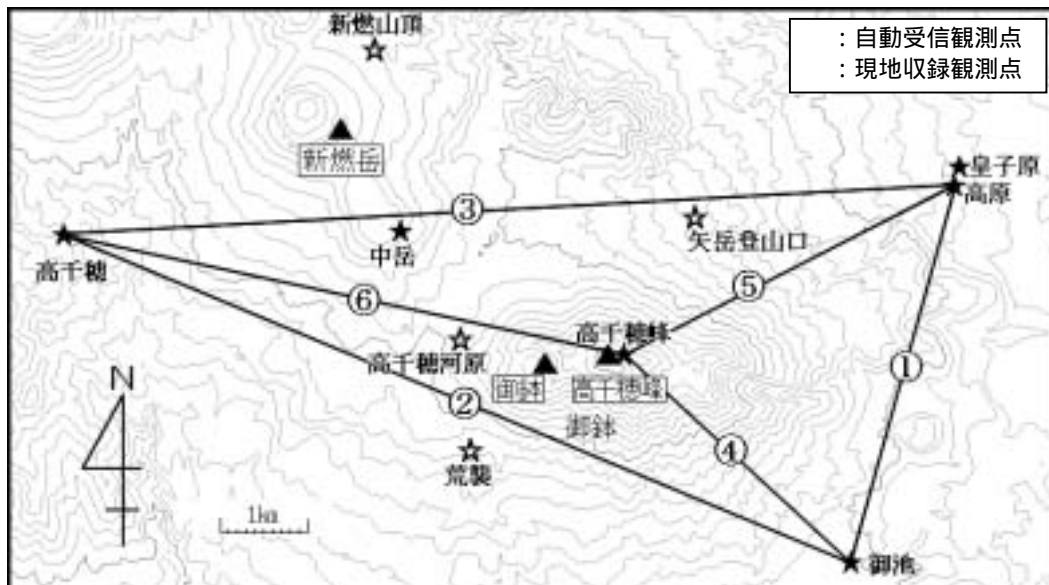


図 9 霧島山 GPS 連続観測点と基線番号
 御鉢を囲んだ観測点の基線による観測を行っています。この基線は図 8 の ~ に対応しています。

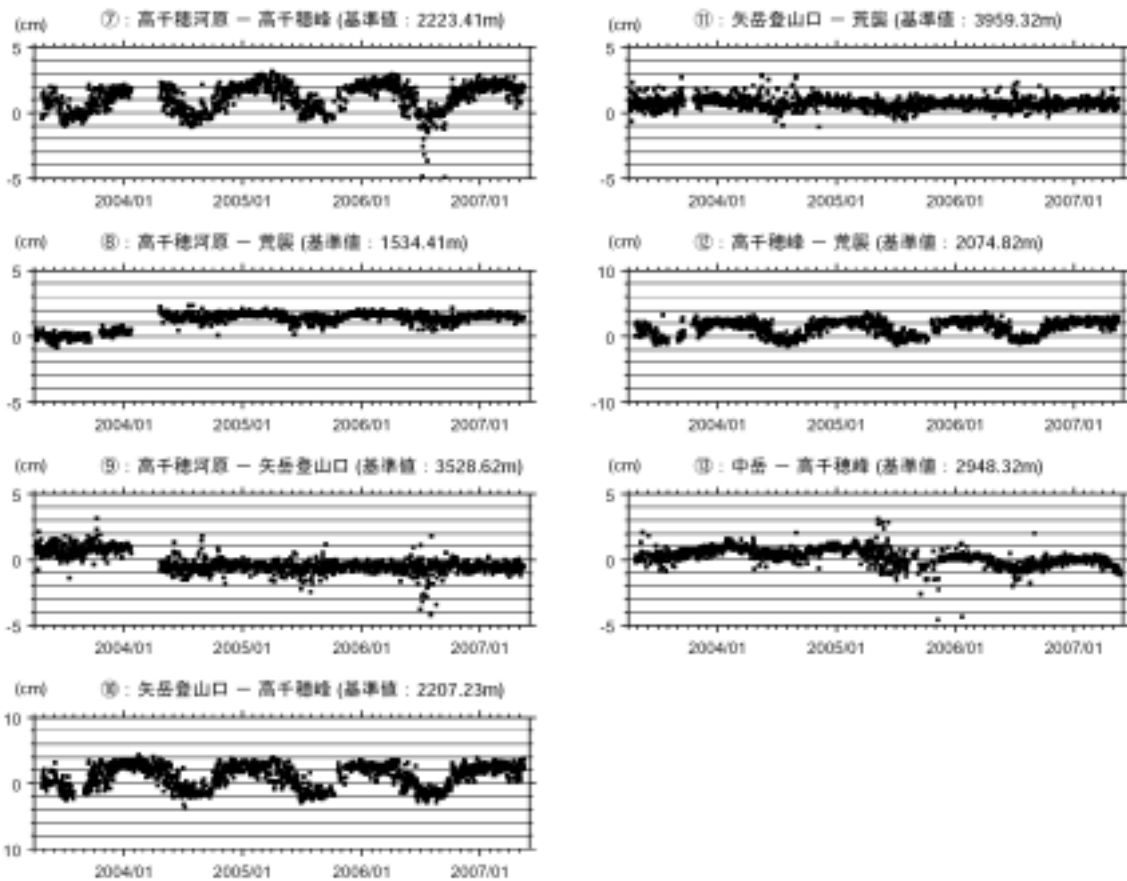


図 10 霧島山（御鉢） GPS 連続観測による基線長変化（2003 年 4 月～2007 年 5 月）
基線長グラフの空白部分は欠測。

* 概ね 1 年周期の大きな変動は季節変化によるものです。これは観測点間の標高差が大きいほど顕著に現れます。

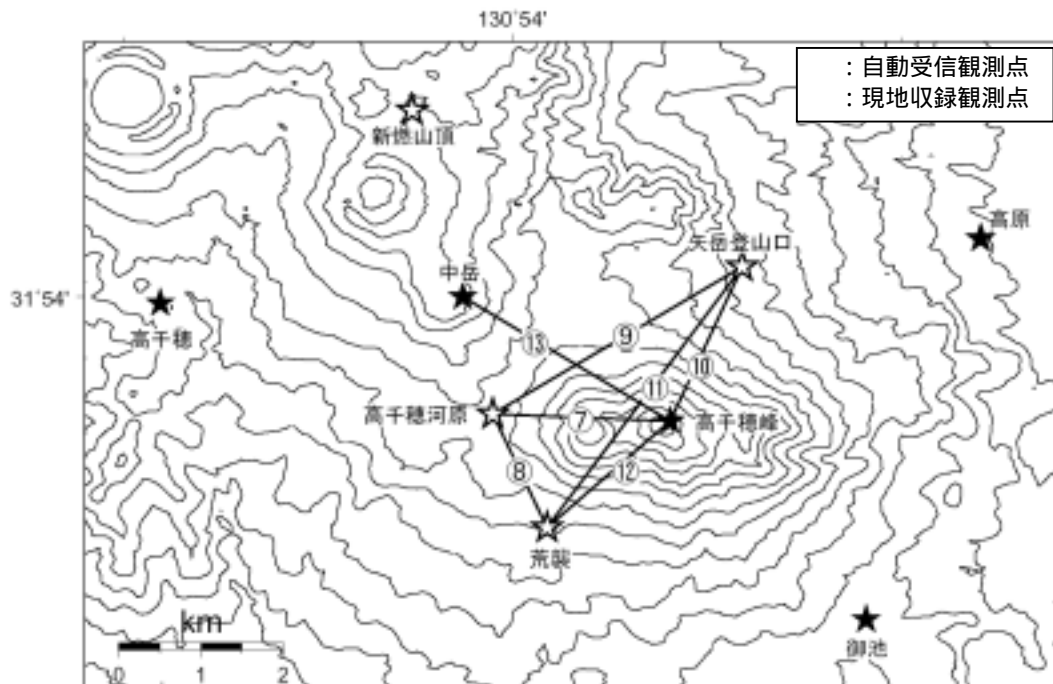


図 11 霧島山（御鉢） GPS 連続観測点と基線番号(現地収録観測点)
御鉢を囲んだ観測点の基線による観測を行っています。この基線は図 10
の ~ に対応しています。